

令和3年度第1回狭山市協働推進協議会会議録

- 開催日時 令和3年6月28日（月）
午後2時から午後3時まで
- 開催場所 狭山市新狭山公民館 ホール
- 出席者 安藤委員、小川委員、後藤委員、豊泉委員、中村委員、南部委員
水村委員、本橋委員、小山委員、嶋田委員、石川委員、田口委員
- 欠席者 天谷委員、横山委員、宮地委員
- 事務局 市民部 村井部長、濱田次長
協働自治推進課 増田課長、高野主幹、有山主事補
- 公開・非公開の別 公開
- 傍聴者 なし

- 1 開会
- 2 市民部村井部長、濱田次長あいさつ
- 3 協働自治推進課自己紹介（増田課長、高野主幹、有山主事補）
- 4 会長あいさつ
- 5 議題
 - (1) 狭山市協働推進協議会について
(事務局より説明)
 - (2) 令和3年度提案型協働事業について
(事務局より説明)

〈意見〉

会 長 協働によるガイドラインに基づいて協働事業がスタートして約9年が経過し、市民と協力しながら、しっかりと協働事業が継続できている。ただ、昨年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、事業を開始したくてもできない現状があった。今年、コロナ禍だから、できることを考え事業をスタートさせてほしい。

(3) 狭山市市民活動団体アンケート結果について
(事務局より説明)

〈質疑応答・意見〉

会 長 当アンケートについては、例えば「問1 年間活動回数」において、どの程度から活動回数に入るのか、など回答に困る内容もあるなど感じた。次にアンケートを行う際は、当該協働推進協議会委員の皆さんに意見をもらってはどうか。

委 員 実際に狭山市市民活動団体アンケートに答えたが、調査期間が、令和2年9月1日(火)から9月16日(水)までの期間で、今よりは、新型コロナウイルス感染症の影響がでておらず、まさかこんなに長引くとは思っていなかった。よって、今の市民活動団体の現状を踏まえ、昨年だけではなく何度もアンケートを実施し、昨年度のアンケートより濃い内容で、市民活動団体の課題についても深堀できたらよいと思った。

ただ、「問15 自由意見」については、設問として、設けていてよかった。協働自治推進課なり他課なりが、各団体が回答いただいた意見を共有し、「協働の協働」のようなものを構築していけば、当アンケートを実施した意味があるのではないかと思った。

(4) 狭山市市民活動団体オンライン交流会について
(事務局より説明)

〈質疑応答・意見〉

会 長 横のつながりを持つこと及びその後のゴールが大切で、市民活動団体同士が何の活動分野か、どのような信念をもって活動しているかが重要である。委員の皆さんでオンラインテスト交流会に参加された委員の方にも話を伺ってみたい。

委 員 ZOOMはよく活用するが、Teamsは活用したことがなく、操作方法や「自分の顔が大きく映る」ことが分かりよかった。

また、連絡先が分かっているにもかかわらず自分から連絡することがないので、まずは、気楽に交流し、お互い助け合うような場の提供をし、参加した団体と交流したいと思っている。

委 員 他団体の活動内容等を共有し、協働事業等でお互い協力できることを行い、同じ市内の市民活動団体同士でもあるので、横のつながりを強化していきたい。

委員 新型コロナウイルス感染症はよくないことばかりではなく、オンライン交流会や ZOOM 会議など、新しい生活様式であり、コロナがなければ絶対に流行ることがなかった媒体だと思う。

また、オンラインを活用することで、若い人の参加や携帯からスマホに乗り換えた高齢者もあり、インターネットが身近に感じるなどのいい面もあり、「協働」としてのこれからの可能性を感じる取り組みだと思う。

委員 市民活動団体の活動分野で、「子育て分野」が多いと感じた。「協働」として、力を入れた方がよいのではないかと思った。また、「子育て分野」が多いのは、狭山市の仕組みや取り組みがしっかりしているのか、仕組みや取り組みができていないからなのかが気になるため、そのような視点で、「協働」としてできる仕組みや取り組みを考えてほしい。

委員 新型コロナウイルス感染症の影響で、人と会うことが難しい状況下であるので、オンラインでの交流会はよいことだと思う。ただ、そのあとの課題等の救い上げをどうするかが大切である。

委員 団体の資金面や人材面の課題が多く、救い上げをしてほしい。また、飯能信用金庫としては、狭山市役所の若手職員と飯能信用金庫の若手職員で、ワークショップを実施し、飲食事業チームと教育事業チームに分かれ、各事業案を発表し、飲食事業については、コロナ禍で飲食店が大変なことから、飯能信用金庫の狭山市内にある支店で、お弁当を売る予定でいたが、許可等の関係で難しく、キッチンカーでの販売をすることを検討している。教育事業については、西武文理大学の学生と連携しながらお金の授業を通じて、ライフプランを行った。

97 団体の市民活動団体があり、それぞれの持っている貴重な特性や課題を共有できることはいい取り組みである。また、オンラインにより狭山市だけではなく、全国どこでも繋がれる利点があり、いいことだと思う。

委員 アンケートについては、市に対して何を求めていることが分かる内容もありよかった。しかし、その後のゴールや目標が見えず、交流会にしてもそうだが、市民活動団体から課題を聞いてその後の目指している道筋が見えてこない。

委員 アンケートを取った目的が分からず、もっと具体的な内容を聞いた方がいいと思った。また、交流会にしても、横のつながりを作って終わりでは意味がなく、そのあとが大切ではないかと感じた。なお、ZOOMなどのオンラインの浸透はまだ多くなく、周知の仕組み等も行政の役割ではないか。また、対面での交流会も行っていくことも大切である。

委員 いろいろな意見が共有できるので、オンライン交流会はいい取り組みだと思う。ただ、当協議会の参考資料として添付してある「狭山市市民活動団体一覧」を見るまでは、どのような市民活動団体がいて、何をされている市民活動団体なのかが分からないので、市民活動団体のPR等を含め周知方法も大切になってくると思った。

(5) その他

(会長より説明)

会長 (仮称) さやま協働によるまちづくり支援センターの開設の必要性等について議論したい。

まちづくり活動がボランティアだけでなく、地域の産業として成立するような、また、例えば環境や福祉、農業など各分野の課題と課題を掛け合わせることによって、解決に導けるような協議の場が生まれると良いと考えている。委員の意見を伺いたい。

〈質疑応答・意見〉

委員 アンケートやオンラインも含め、協働とは、市民活動団体のためでも行政のためでもなく、市民のためのものであり、市民の課題解決に向けて事業をしているので、「協働」とはなにか、どのような支援をしていくか、また「協働」とは何かの周知を広め、土台作りをしっかりと構築した方がいいと思う。

また、市民活動団体をアピールする手段の取り組みについても行ってほしい。

委員 協議する場としてはいいと思う。ただ、まちづくり支援センターにこだわらず縦割りの業務ではなく、もう少し柔軟な対応を取れる組織を作ったほうがよいのではないかと。

委員 まちづくり支援センターを作ることより、やりたいことをする場を提供した方がいいのではないか。

私は、子どもたちのために活動をしているが、大人の都合でできないというのが非常に惜しいと感じている。まちづくり支援センターなどの箱を造るより、自由な発想と自由な場の提供が大切だと感じた。

また、協働としてのビジョンを明確にし、5年後、10年後に向けた動きを考えていきたい。

委員 狭山市協働によるまちづくり条例では、市民が主役であり、市民を外して地域商社などのまちづくり支援センターを作るとは、市民から見て有益なのかを検討し、自治体と市民と当該協議会が三位一体となって行っていくことが大切であると考えている。

委員 協働の組織としての役割が何なのかが分からない。

また、地域としての目的や魅力あるまちづくりのビジョンがある中で、「協働」としてどう歯車を回していくかをはっきりさせることで、支援しやすく「協働」として可視化することが重要であるのではないかと考えている。

委員 行政も企業経営としての考え方を持ってもらい事業をしてほしい。

市民が抱えている課題を解決するために動いていくことが「協働」であるのではないか。また、みんなが支援し、応援していくことが大切である。

会長 今の狭山市協働推進協議会の委員はこれで任期が満了し2年間の総括として本質に迫る協議会だったと思う。これをもって協議会の最終回とさせていただければ思う。

副会長 協働自治推進課として、SNS等を発信し、面白いコンテンツを期待している。どこにいても狭山市が見られるようなものにしてほしい。

6 閉会